



MARUMA

2025 3

07

TakeFree

特集

おもいをつむぐ。



聖徳大学児童学科の学生がこだわり目線で松戸の^{まろ}を紹介するフリーペーパー



どれもとても綺麗！！

着物の柄にも意味があるんだね！

今も昔も変わらぬもの 葛西屋呉服店

毎週金曜日は
YouTubeで
ライブ配信中！



是非この機会に呉服を身に纏い、普段とは違った日常を過ごしてみてはいかがだろうか。

また、流行に合わせて反物等の仕入れを行う事で若い世代の人達にも呉服を気軽に楽しんでほしいと語っている。

中山さんは、SNSを活用し、呉服の魅力を世界に発信している。

皆様は「不易流行」という言葉を聞いたことはあるだろうか。本質的なものは変わらず、軸を持ちながらも新しい物を取り入れるという意味だ。

社長の中山さんから話を伺う内に、「私たちの呉服に対する「堅苦しい」という印象は大きく変わった。由緒正しき老舗である。

一階は色鮮やかな呉服や小物が並び、外の庭園や茶室では成人式の前撮りなどの撮影を行なっている。二階は着付け教室や着物に関するイベント等を開催している。

松戸駅西口の大通りを進むこと徒歩4分、私たちは非日常の世界へ誘われた。そこは葛西屋呉服店。1839(天保10)年から続く、



YouTube Instagram

葛西屋呉服店
住所：〒271-0091
千葉県松戸市本町8-4
電話番号：047-367-2026
営業時間：10時30分～18時30分
定休日：火曜日



松戸でドーナツ / DoughMaker



東松戸駅から徒歩3分。
 スーパーに隣接する明るい店舗で営業するDoughMaker。(ドゥーメーカー)は、間借りスタイルでドーナツを提供している。店内は太陽の光が差し込み、心地よい温かな雰囲気包まれている。扉を開けると、揚げたてドーナツの香ばしい香りが広がっている。
 「自分のおいしいと思うドーナツを食べてもらいたい。子どもから大人まで多くの人にドーナツのおいしさを楽しんでもらいたい」という店主川尻さんの想いでできたDoughMaker。
 メニューは季節限定を含めて約40種類あり、8種類のコーティングを日替わりで提供している。日ごとに異なるフレーバーは「その日しか味わえない特別感」が魅力の一つ。
 DoughMakerのドーナツは、店主さんが幼少期に作ってもらったお母さんの揚げたてドーナツをベースにしている。揚げている時の匂い、音、味が深く印象に残っているそうだ。



ゆえに店主さんは、揚げたてにこだわっている。注文が入ってからその場で揚げ、できたてのドーナツを提供している。取材時にドーナツを頂くことができた。外はサクッと、中はむぎゅっと、揚げたてならではの食感とおいしさを楽しんだ。
 またDoughMakerのドーナツは、機械に頼らず一つひとつ丁寧に、たっぷり愛情を込めて作られている。一から生地を作り、気温や湿度を考慮してこね、状態に合わせて油の温度を変化させながら鉄鍋で少しづつドーナツを揚げている。店主さんのドーナツに対する熱い想い、こだわりの詰まったDoughMakerのドーナツをぜひ食べていただきたい。



Instagramを通して
営業時間や場所を
チェックできるよ！

Tiny kitchen and counterや
つながる隠居屋 IN kyo-Yaでも出店中！



DoughMaker
 住所：〒270-2225
 千葉県松戸市東松戸3-2-1
 アルフロンテ1F
 営業時間：11時～18時
 (無くなり次第CLOSE)
 定休日：不定休
 2025年5月頃実店舗OPEN予定
 住所：〒270-2231
 千葉県松戸市稔台一丁目15-6
 アップルステーションA棟1F



Instagram

子ども食堂 / KEYAKIDS caffe



造形ワークショップも
体験できます！

家族みんなのよりどころ

松戸駅から徒歩5分。街ビルの階段を登った先にあるのはKEYAKIDSの事務所。保育園などを運営するKEYAKIDSは月1回、子ども食堂を開催している。

保育士、職員の方から共通して「寄り添う」ことの大切さを語っていただいた。子どもにはもちろん、参加している親にも寄り添い、子育てに対する不安を解消する場を作っている。

一般的な子ども食堂はどこか身構えてしまうイメージがあるが、子どもの居場所となり、子どもだけではなく親も入りやすい雰囲気できれいに立ち寄れる場所を目指している。

その他に小中学生が対象の子ども食堂「こどもだらけカフェ」、未就学児の子どもと家族が対象の交流サロン「あんべ」を不定期で開催している。子どもやその家族に寄り添ってくれる場所KEYAKIDS cafe、ぜひ立ち寄り楽しい時間を過ごしてもらいたい。

子ども食堂KEYAKIDS cafe
住所：〒271-0091
千葉県松戸市本町7-17
AKBLD.XXIV MATSUDD 3F
電話番号：047-308-0554
営業時間：10時45分～13時
開催日：毎月1回 土曜日



カフェ予約



Instagram



八嶋商店

人と人とのつながり

松戸駅西口から徒歩5分。江戸時代から続く老舗八嶋商店があるのをご存知だろうか。

店内に入ると、まるで江戸時代にタイムスリップしたような感覚。店主の八嶋さんは昔の街並みや歴史、提灯の意味などを熱く語ってくれた。「完成した提灯を自治会の祭り・神社・飲食店などに置くことで、明かりに引き寄せられ人が集まり、コミュニケーションの場が広がる。これが『人とのつながり』になる。」

この話を聞いて私達は、人の温かさ、地域とのつながりの大切さについて再考した。時代と共に景色が変わる中、人々の想いをつむぐ提灯が未来へ続いて欲しいと感じた。

店内には、提灯以外にも羽子板・まねき猫・だるまなど数多くの縁起物が並んでいる。

また、事前予約制で提灯作りの体験も行っているので、ぜひ気軽に足を踏み入れてほしい。



お店の中のどこかに僕がいるよ！！



のぞきあってみたよ！！



八嶋商店

住所：〒271-0091
千葉県松戸市本町6-3
電話番号：047-369-1470
営業時間：10時～18時
定休日：火曜日、年末年始



HP



「いちじくのある暮らし」



みんなをトリコにするいちじく ファーム根本

強い日差しが照り付ける8月上旬。
私たちはいちじく農園ファーム根本を訪れた。ロイカル感溢れる小金城趾駅から歩くこと15分。開かれた空間に突如現れたこの農園で私たちは温かな笑顔でオーナーの根本一夫さんとその娘さんに出迎えてもらった。ファーム根本はオーナーと娘さん2人で営んでいる。「採れたてフレッシュな美味しいいちじくと、『感謝・優しさ・喜び・幸せ』の和の気持ちを全国に届けたい」と語ってくれた。いちじくは鮮度を保つのが難しい。また、雨にも弱い。いつでもフレッシュないちじくを届け、味わう事ができるよう日々愛情をこめて一つひとつ大切に育てている。
ファーム根本は何年もかけて試行錯誤を重ねた、化学肥料不使用の栽培方法を行っており、苦味やえぐみが無く、甘くねっとりとした食感で、皮ごと味わうことができる。

また、オーナーはいちじく農家になる前にホテルでシェフをしていた。その経験を活かした加工品も多く手がけており、ジャムや大福なども販売している。こちらもぜひ味わって頂きたい。
今回取材を通して、いちじくの美味しさだけではなくオーナーの人柄にも触れることができた。他には無い甘くフレッシュないちじくは口に入れた瞬間思わず「おいしい!」と言葉が出て、トリコになってしまった。
ここでしか味わえず、食べた人すべてをトリコにする。「ファーム根本のいちじく」が松戸に留まらず全国に広まっていくことを願いたい。

ファーム根本
住所：〒270-0001
千葉県松戸市幸田西の下63
電話番号：090-6193-4688
営業時間：8時00分～12時00分
定休日：不定休



Instagram



HP

撮影場所：八嶋商店



松戸市観光協会HP

聖徳大学児童学科HP

児童学科大成ゼミ
Instagram

1724
白福猫8号
7100円
税込

「フリーペーパーまるま」は、
「アート×地域×子ども」をテーマに研究する聖徳大学児童学科の大成ゼミが
学習の一環として、松戸市観光協会と協力し制作しています。

発行／一般社団法人松戸市観光協会（松戸市本町7-3）

写真・文・デザイン案／聖徳大学児童学科大成哲雄ゼミ

（池田望恵、岡七海、加藤愛海、加藤優華、金沢ほのか、壁下美雨、
小松結奈、齋藤春菜、鈴木亜海、中岡彩花、矢作亜弥）

デザイン・写真／聖徳大学美術研究室（萩原琴音）

協力／一般社団法人松戸市観光協会（スピカ舞、石川雅啓）、

聖徳大学児童学科、聖徳大学生涯学習研究所、
葛西屋呉服店、DoughMaker、ファーム根本、
KEYAKIDS caffe、八嶋商店

表紙撮影場所／葛西屋呉服店

発行月／2025年3月

おもいをつむぐ。

今回の取材を通じて、地域の人々がそれぞれの立場で
「想いをつむぐ」姿を目の当たりにし、
松戸の魅力や個々の活動がどのように
地域の未来に貢献しているかを深く知ることができた。

葛西屋呉服店は、時代の変化を受けとめながらも伝統を守り続けている。

八嶋商店は、人々を集める提灯を作り、文化を後世に継承している。

Dough Makerは、子ども時代の記憶や感動を未来につなげている。

KEYAKIDS caffeは、子どもの居場所を作り、親子の絆を深める場を提供している。

ファーム根本は、一つひとつのいちじくに愛情を込め、人々の元へ届けている。

私たちも地域文化の継承や
人と人とのつながりや想いを大切にしていきたい。

